広告

もっと知って「乾癬（かんせん）」のこと

治療上の不安や疑問は皮膚科専門医に相談を

「乾癬（かんせん）」は、日本に約40万人の患者がいるといわれる皮膚の病気。その名前から感染すると誤解されることがありますが、他人にうつることはありません。皮膚科専門医（日本皮膚科学会認定）の林周次郎先生、神谷浩二先生に聞きました。

※文中敬称略　※取材はソーシャルディスタンス確保などの感染予防対策を取って実施しました。

自治医科大学附属病院
皮膚科　准教授
神谷 浩二先生

獨協医科大学病院
皮膚科　准教授
林 周次郎先生

皮膚だけでなく、関節に痛みや腫れが出ることも

―乾癬はどんな病気ですか。

神谷　乾癬は慢性的に炎症が続く病気です。皮膚の赤みが盛り上がり、表面には銀白色のフケのようなもの（鱗屑）が付いて、かさぶたのようになるのが特徴です。かゆみを伴うこともあり、刺激を受けやすい頭やひじ、ひざ、すねなどが症状の出やすい部位です。原因は完全には解明されていませんが、乾癬になりやすい体質の方に、感染症やストレスなどの要因が加わって発症します。最近では、肥満やメタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、脂質異常症なども影響すると考えられています。

乾癬の患部

―積極的に教えてください。

神谷　乾癬には5つのタイプがあり、最も多いのが「尋常性乾癬」で、数ミリ程度の小さな皮疹から次第に広がり、先に述べた症状になります。次に多いのが「乾癬性関節炎」というタイプです。手足、指などの関節の痛みや腫れを伴い、背中や腰、アキレス腱などに症状が出ることもあります。皮疹が出た後に関節症状が出ることが多く、頭や臀部、爪に皮膚症状がある場合はリスクが高いとの報告もあり、特に注意が必要です。

―子どもでも乾癬になることはありますか。

神谷　発症年齢は中高年が中心ですが、中には10歳以下の患者さんもおられます。子どもでは、頭、耳の穴、おへそ、おむつの当たる部分、ひざやひじの外側などに症状が出やすいです。大人と比べて鱗屑が少ないことも、手のひらや足の裏の皮疹、かゆみを伴うことも特徴です。他の皮膚炎などと見分けがつかないことも多く、経過をみながら診断します。

林　扁桃炎などの感染症の後に小さな皮疹が出る「滴状乾癬」というタイプが、大人より多いのも特徴です。

拡大した選択肢から、患者さんの目標に沿って治療を選べるように

―乾癬にはどんな治療があるのですか。

神谷　乾癬の慢性的な炎症の原因となる細胞間の信号伝達を、ピンポイントで抑える治療薬です。皮下注射か点滴での投与となり、投与間隔はさまざまです。皮下注射の場合は、自己注射も可能です。費用は高額ですが、高額療養費制度や健康保険組合の付加給付制度などで自己負担を軽減できるので、受診中の医療機関で相談してみてください。

―治療はどう選ぶのですか。

林　2010年以降増加する生物学的製剤に加え、より効果の高い内服薬も登場し、治療の選択肢は大きく変化しています。既往症などを考慮し副作用に注意しながら行う点は同じですが、重症度に応じた治療を医師主導で決定するというよりも、患者さんの治療目標に沿った選択肢を提案できるようになってきました。例えば、局所療法で改善しているようにみえても、一部の症状が残るなどで患者さんの満足度が低い場合には、全身療法を行うこともあります。

―小児乾癬はどうですか。

林　子どもの治療は今のところ限定的です。慎重に使うべき薬剤が多く、紫外線照射で頻繁に通院するのも難しいことが多いでしょう。ただ、乾癬性関節炎や重い尋常性乾癬で、6歳以上に使える生物学的製剤も出てきました。

―治療は長く続きますか。

神谷　感染症がきっかけの滴状乾癬は一時的な発症で治まることもありますが、一般的には治療を継続することで良い状態を維持するものです。多くの場合、治療を中断すると悪化するので、医師とよくコミュニケーションをとって、治療の継続と見直しを行うことが大切です。

あきらめずに、主治医とよく話し合って治療のゴールの共有を

―患者さんに日常生活で気を付けてほしいことは？

林　外用剤を塗るときは、見えにくいところ、背中や陰部などにも皮疹がないか確認してください。新たな皮疹や関節の痛みに気付いたら、受診時に医師に伝えるようにしましょう。良い状態を保つには、通院を途中でやめてしまわないことが大切です。また、肥満や喫煙、習慣的な飲酒は改善を心がけましょう。糖尿病や高血圧などの生活習慣病は乾癬の悪化因子なので、その治療も重要です。

―受診のタイミングについて教えてください。

林　全身療法をしている方は特に、受診時に次回の日程を確認し、適切な間隔で受診してください。外用剤は薄く伸ばしすぎている方が多いのですが、効果を発揮するには必要十分な量を塗ることが大切です。薬剤がなくなる前に受診しましょう。

―生物学的製剤の治療を希望するときはどうすればよいですか。

林　日本皮膚科学会が認定した「乾癬分子標的薬使用承認施設」で、副作用に留意しながらの治療となります。現在栃木県内には大学病院をはじめ6施設。同学会のWebサイトで検索できます。それ以外のクリニックなどを受診している場合はまず主治医に希望を伝えて相談してください。

神谷　治療のゴールを主治医と共有することが大切です。そのうえで、通院頻度や費用、自身が治療の対象になるのかなど、一度詳しく聞くために承認施設に紹介を受けるのもよいと思います。

―患者さんやご家族へのメッセージをお願いします。

林　治療が大きく進化する中、一部の難治性の患者さんには生活習慣病が併存していることが多いようです。ご家族も一緒に、適切な運動や食生活の見直しをしていただければと思います。また、治療の目標をうまく医師に伝えられないときは、受付スタッフや看護師に伝えたり、院内に設置されているこの多い問診ツールを活用してみてください。

神谷　治療によって症状が改善すると、日常生活での楽しみも増やすことができます。今は治療の開発が進み、塗り薬も飲み薬も注射薬も、選択肢が増えています。良い状態を長く維持できる時代になっているので、あきらめずに相談してください。

乾癬患者さんの日々の治療をサポートする情報サイト「乾癬.com」
https://www.maruho.co.jp/kanja/kansen/

小児乾癬でお悩みの方への情報サイト「小児乾癬について知ろう」
https://www.maruho.co.jp/kanja/syounikansen/

提供：マルホ株式会社　〒531-0071　大阪市北区中津1丁目5-22